

## 共和工業所（5971）

担当 織田真由美

レーティング： OUTPERFORM (2017/9/6) → OUTPERFORM

建設機械需要増加で来期も増収増益期待。OUTPERFORM継続。

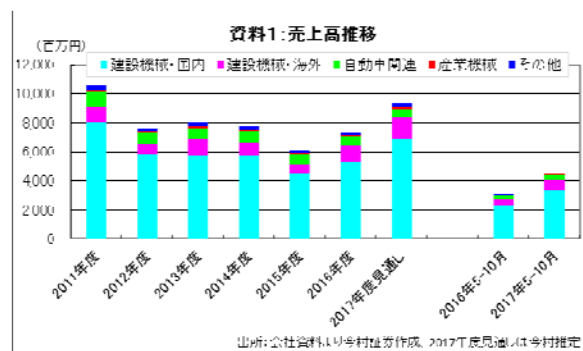
	売上高 (百万円)	伸び率 (%)	営業利益 (百万円)	伸び率 (%)	経常利益 (百万円)	伸び率 (%)	純利益 (百万円)	伸び率 (%)	EPS (円)	1株配 (円)
連 14/4	8,092	+6.0	547	-14.6	632	-14.1	378	-14.2	55.71	15.00
連 15/4	7,741	-4.3	529	-3.3	599	-5.3	-883	-	-130.06	15.00
連 16/4	6,098	-21.2	212	-59.8	289	-51.7	159	-	23.44	15.00
連 17/4	7,357	+20.6	669	+214.8	715	+147.3	539	+238.9	79.45	15.00
連 18/4(予)	9,400	+27.8	1,040	+55.3	1,080	+50.9	820	+52.0	603.86	80.00
第2四半期累計期間										
連 16/5-10	3,160	+2.4	133	+38.2	150	+11.6	112	+44.9	16.55	0.00
連 17/5-10	4,595	+45.4	538	+303.2	565	+276.2	408	+263.6	301.13	0.00
株価(2017/12/11)			8,110 円							
期末発行済み株式数(17/10末)			1,360 千株							
期末自己株式数(17/10末)			2 千株							
時価総額			11,030 百万円							
企業価値(EV)			6,419 百万円							
ROE(17/4実績)			5.8 %							
予想配当利回り			1.0 %							
予想PER			13.4 倍							
BPS(17/4実績)			1,433.82 円							
PBR			1.1 倍							
CFPS(17/4実績)			422.7 円							
PCFR			19.2 倍							
EV/EBITDA(17/4実績)			2.3 倍							

出所：共和工業所、ブルームバーグ、今村証券

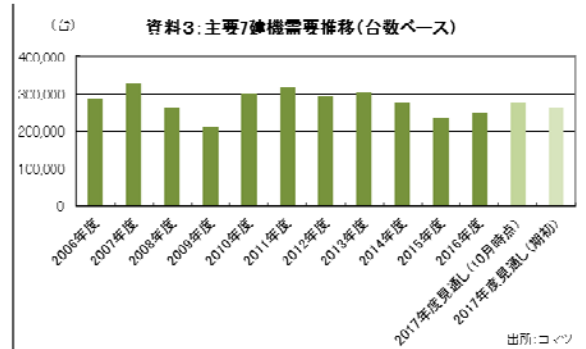
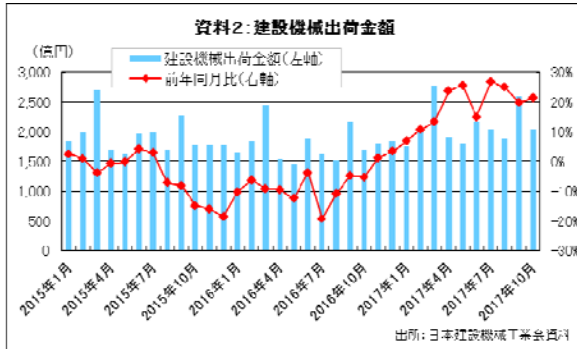
2017年11月1日を効力発生日として普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施。2018年4月期のEPS及び1株当たり配当金については、当該株式併合の影響を考慮した金額を記載。PBRは当該株式併合後の影響考慮後の倍率を記載。

建設機械用高強度ボルト専門大手。売上高の8割以上を建設機械向けが占め、コマツ向けが主力。

2018年4月期第2四半期連結決算は大幅増収増益。建設機械の需要回復が要因だ。国内では新排ガス規制実施前の需要増加の影響があり、海外では中国が大幅に回復、米国も堅調で、資源価格の上昇を背景にインドネシアやオーストラリアで鉱山機械の需要が増加した。建設機械部門の売上高は、国内向けが前年同期比44.0%増の33億43百万円、海外向けが同88.1%増の7億42百万円となり、建設機械部門全体でも同50.3%増の40億85百万円と大幅に増加した（資料1参照）。自動車関連、産業機械も堅調で、売上高は同45.4%増の45億95百万円と、期初見通しを5億95百万円上回った。利益については、販管費の増加があったものの、増収効果によって営業利益が4倍超の5億38百万円と、期初見通しを1億円超上ぶれる結果となった。



建設機械需要は持ち直している。日本建設機械工業会が発表する建設機械の出荷金額は2月から2桁増加が続いている(資料2参照)。コマツでは10月に主要7建機の今期の需要見通しを期初の「0~5%の増加」から「8~13%の増加」に上方修正した(資料3参照)。殊に中国や東南アジアの需要および鉱山機械の需要が強含みとしており、鉱山機械については期初の「10~20%の増加」を「40~50%の増加」に引き上げた。日立建機でも今期の油圧ショベルの世界需要見通しを7月時点の「+7%」から「+12%」に修正しており、鉱山機械については4割増としている。大型の部品を強みとする共和工業所には恩恵が大きそうだ。



事業環境が好調な中、共和工業所は今期業績予想を上方修正した。売上高は18億円の増額、営業利益は3億60百万円の増額だ。配当についても「安定配当」を掲げ、15円(株式併合の影響考慮前)を維持してきたが、10年ぶりの増配に踏み切った。

連結	売上高 百万円	営業利益 百万円	経常利益 百万円	純利益 百万円	EPS 円
前期実績	7,357	669	715	539	397.25
前回予想	7,600	680	720	550	405.00
通期見直し	9,400	1,040	1,080	820	603.86

資料4: 通期業績予想の修正  
(EPSは株式併合の影響を考慮)

来期についても建設機械需要は強含むとの見方が多い。中国ではリーマン・ショック後に約4兆円の経済対策を打ち出したが、その時期に投資された設備の更新需要が見込まれる。また、鉱山機械もようやく持ち直してきただけに、当面強含むとの見方が多い。今村証券では好環境が続くとの想定のもと、共和工業所の来期業績を6%程度増収の売上高100億円、営業利益は10%増益の11億円強を見込む。この場合、EPSは630円程度が見込まれる。

今期業績予想の上方修正を受けて株価は急騰したが、来期も増益が期待されることから、上値余地がありそうだ。投資判断をOUTPERFORM継続とする。

(参考) 大手建設機械メーカーの今期業績予想

	売上高 (百万円)	伸び率 (%)	営業利益 (百万円)	伸び率 (%)	純利益 (百万円)	伸び率 (%)	EPS (円)
6301 コマツ	1,802,989	-2.8	174,097	-16.5	113,381	-17.5	120.26
東1部	2,328,000	29.1	216,000	24.1	159,000	40.2	168.58
6305 日立建機	753,947	-0.6	23,622	-30.6	8,022	-8.9	37.72
東1部	890,000	18.0	55,000	132.8	30,000	274.0	141.07

(上段は2017年3月期、下段は2018年3月期見直し)

(注) コマツの今期予想は米鉱山機械メーカーのジョイ・グローバル社(現「コマツマイニング(KMC)」)の子会社化の影響で大幅増収見直し。KMCを除く従来ベースでは13.0%の増収、35.6%の営業増益見直し。

## アナリストによる証明

本資料に示された見解は、言及されている発行会社とその発行会社等の有価証券について、各アナリストの個人的見解を正確に反映しており、さらに、アナリストは本資料に特定の推奨または見解を掲載したことに対して、いかなる報酬も受け取っておらず、今後も受け取らないことを認めます。

## レーティングの定義

OUTPERFORM：今後12ヶ月間のトータルリターンがTOPIXの予想リターンを10%超上回ると予想される。

NEUTRAL：今後12ヶ月間のトータルリターンがTOPIXの予想リターンの+10%と-10%の間に入ると予想される。

UNDERPERFORM：今後12ヶ月間のトータルリターンがTOPIXの予想リターンを10%超下回ると予想される。

トータルリターン：株価変動率+配当利回り

目標株価は12ヵ月間の投資を想定しており、将来発行されるレポートで修正されることもあります。

本資料に記載された意見及び予想は、記載された日付における今村証券の判断であり、これらは予告なく変更される場合があります。今村証券は本資料の記載された日付以降に内容の変更・修正を行う義務を負いません。本資料はお客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の有価証券売買に関する申込または勧誘を意図するものではなく、お客様に対して投資の助言を提供するものでもありません。また、本資料に記載されている情報もしくは分析がお客様にとって適切であると表明するものでもありません。投資に関する最終決定はあくまでもお客様ご自身の判断でなさいませうようお願い申し上げます。

本資料に記載された内容は、信頼できると思われる情報、または信頼できる情報源から得た情報を基に今村証券が作成しておりますが、機械作業上データに誤りが発生する可能性があります。当社はその内容の正確性や妥当性、適時性または完全性を保証するものではありませんし、本資料における過誤又は遺漏に対して何らの責任を負うものでもありません。本資料でインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、当社自身のアドレスが記載されている場合を除き、アドレス等の内容について当社は一切責任を負いません。本資料は、当然にお客様の投資結果を保証するものではありませんので、今村証券は、本資料の内容について第三者のいかなる損害賠償の責任を負うものでもありませんし、お客様が本資料に依拠した結果としてお客様が被った損害または損失については一切責任を負いません。また、今村証券は本資料に関するお客様からのご質問やご意見に対して、何ら対応する責任を負うものではありません。

当社および関係会社の役員は、本資料に記載された証券について、ポジションを保有している場合があります。当社および関係会社は、本資料に記載された証券、同証券に基づくオプション、先物その他の金融派生商品について、買いまたは売りのポジションを有している場合があります、今後自己勘定で売買を行うことがあります。また、当社および関係会社は、本資料に記載された会社に対して、引受等の投資銀行業務、その他サービスを提供し、かつ同サービスの勧誘を行う場合があります。

**日本および外国の株式・債券への投資は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化およびそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより、投資元本を割り込むリスクがあります。**

本資料は当社の著作物であり、著作権法により保護されております。当社の事前の承認なく、また電子的・機械的な方法を問わず、本資料の全部もしくは一部引用または複製、転送等により使用することを禁じます。

## 今村証券の営業サービスネットワーク

### 《今村証券の店舗網》

本 店：076-263-5111  
弥生支店：076-242-2122  
七尾支店：0767-52-3122  
高岡支店：0766-26-1770  
福井支店：0776-22-6644

小松支店：0761-23-1525  
加賀支店：0761-73-3133  
富山支店：076-432-2131  
砺波支店：0763-33-2131  
板垣支店：0776-34-6996

## 株式、債券、投資信託の手数料等およびリスクについて

- 国内株式等の売買取引には、約定金額に対して最大 1.1799% (税込) (1.1799% に相当する金額が 2,565 円未満の場合は 2,565 円 (税込)) の委託手数料をご負担いただきます。
- 国内株式等を募集等によりご購入いただく場合は、購入対価のみのお支払いとなります。
- 国内株式等は、株価など売買価格の変動により損失が生じるおそれがあります。
- 外国株式 (外国 ETF、外国預託証券を含む) の外国金融商品市場等における委託取引にあたっては、売買金額 (約定金額に外国金融商品市場における手数料と税金等を購入の場合には加え、売却の場合は差し引いた額) に対し、最大 0.9720% (税込) の国内取次手数料をいただきます。外国金融商品市場での取引にかかる手数料、税金等は国 (市場) により異なります。
- 外国株式の国内店頭取引にあたっては、取引価格に取引の実行に必要なコストが含まれているため、別途手数料は必要ありません。
- 外国株式 (外国 ETF、外国預託証券を含む) の売買、配当金等の受取り等にあたり、円貨と外貨を交換する際は、外国為替市場の動向をふまえて今村証券が決定した為替レートを用います。
- 債券を募集・売出し等によってご購入いただく場合は、購入対価のみのお支払いとなります。
- 債券は、市場の金利水準の変動等により債券の価格が変動しますので、損失が生じるおそれがあります。さらに外国債券は、為替相場の変動等により元本損失を生じる場合があります。また、倒産等、発行会社の財務状態の悪化により元本損失を生じる場合があります。
- 投資信託は、主に国内外の株式や公社債等の値動きのある証券を投資対象とし投資元本が保証されていないため、当該資産の市場における取引価格の変動や為替の変動等により投資 1 単位当りの価値が変動します。したがって、お客さまのご投資された金額を下回ることもあります。
- 投資信託にご投資いただくお客様には、銘柄毎に設定された販売手数料および信託報酬等の諸経費等をご負担いただきます。
- 株式、債券および投資信託のリスクにつきましては、上場有価証券等書面、契約締結前交付書面やお客様向け資料をよくお読みください。

# 今村証券株式会社

金融商品取引業者 北陸財務局長 (金商) 第 3 号  
日本証券業協会加入